

東アジア若手天文学者会議(EAYAM)2017主催
公開講演会「天文学最前線」
～天文学における二大発見物語～

11/18(土)
14時～16時

天文学の第一線で活躍する若手研究者が
最先端の研究トピックスをご紹介します！

プログラム

開会挨拶(14:00)

講演1(14:05-)

「太陽系外惑星発見絵巻:天体観測によってめぐりあう地球にそっくりな惑星」

講師 大宮 正士

(国立天文台 太陽系外惑星探査プロジェクト室 特任研究員)

講演2(14:50-)

「暗黒エネルギー発見物語:謎に迫る最新の観測と将来の計画について」

講師 鈴木 尚孝

(東京大学 国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 特任助教)

全体質疑応答(15:40-)

閉会(16:00)

日時:

2017年11月18日(土)

14:00～16:00(開場 13:40)

会場:

県立石垣青少年の家 大研修室

対象:どなたでも

(小学生高学年以上推奨)

定員:60名(入場無料)

お申し込み & お問い合わせ:

NPO法人 八重山星の会

(0980)88-6558 まで電話でお申し込み下さい(空席がある場合は当日参加可能)

主催:東アジア若手天文学者会議

(EAYAM)2017

共催:NPO法人 八重山星の会

東アジア若手天文学者会議(EAYAM)2017主催 公開講演会「天文学最前線」 ～天文学における二大発見物語～

11/18(土)
14時～16時

2017年11月13日から17日にかけて、国際会議「東アジア若手天文学者会議(EAYAM*)2017」がアートホテル石垣島で開催されます。本会議は主に日本、中国、韓国、台湾の若手研究者が研究発表を通して相互交流を行うもので、国際共同利用、理論研究などにおいて大きな成果を挙げている東アジアの研究協力体制のさらなる発展を目指しています。

本会議に関連し、EAYAM2017主催による一般向けの公開講演会を開催します。未知の惑星の姿を見せてくれる太陽系外惑星探査や、現代物理学最大の謎の一つである暗黒エネルギーに関する研究など最先端の研究トピックスをご紹介します。どなたでもお気軽にご来聴ください。

*EAYAM : East Asian Young Astronomers Meeting

講演1「太陽系外惑星発見絵巻：天体観測によってめぐりあう地球にそっくりな惑星」

講師 大宮 正士

(国立天文台 太陽系外惑星探査プロジェクト室 特任研究員)



太陽系外惑星のイメージ(Credit: ESO / M. Kornmesser)

太陽以外の星の周りをまわる惑星が発見され始めて二十年ほどの間に、天体観測によって明らかにされてきた太陽系外の惑星たちは様々な世界を見せてくれています。太陽系外の惑星は、太陽系には存在しない、星のごく近くをまわる巨大な惑星や極端な四季がある惑星、あるいは太陽系の地球のような惑星である可能性が高いものなど、多種多様なのです。

このような研究成果をもとに、天文学では「地球に似た生命が住める惑星は宇宙にどれくらいあるのだろうか?」、「地球のような惑星はどのようにしてできたのだろうか?」という問いの答えを探しています。これまでに人類がめぐりあってきた太陽系の外の惑星たちの様子を紹介しつつ、地球にそっくりな惑星「第二のちきゅう」にどのように迫っていくのかをご紹介します。このお話では、数千億個といわれる天の川銀河の星たちの中で、天体観測によってどうやって地球にそっくりな星「第二のちきゅう」をさがしていくのか少しでも知ってもらえたらうれしいです。

講演2「暗黒エネルギー発見物語：謎に迫る最新の観測と将来の計画について」

講師 鈴木 尚孝

(東京大学 国際高等研究所 カブリ数物連携宇宙研究機構 特任助教)

宇宙の運命はどうなるのだろうか?誰もが抱き続けてきた「杞憂」に最新の観測は、はじめて答えを出すことができるようになりました。遠方銀河で起きた星の爆発現象である超新星を使って銀河までの距離を精密に測定したところ、宇宙は永遠に膨張を続けるという結果だけではなく、その膨張速度は加速しているという驚きの報告をしました。現在「暗黒エネルギー」と呼ばれる大発見に2011年ノーベル物理学賞が授与されましたが、その正体については全くわかっておらず、現代物理学最大の謎のひとつとなっています。加速膨張宇宙発見に至るまでチームメンバーとして目撃したさまざまな物語と共に、すばる望遠鏡や宇宙望遠鏡による将来計画をご紹介します。